

三原市民と市長の「みらいトーク」(第23回) 実施結果

- 1 日 時 令和5年4月28日(金) 15時30分～17時00分
- 2 場 所 三原市役所本庁舎2階 会議室201
- 3 テーマ 子ども・子育て支援
- 4 参加者 子育て支援活動を行っている団体(4名)
岡田市長

5 内 容

テーマ1：子育て世帯の現状について

【市長】

- ・子どもや子育て中の保護者は、コロナ禍の3年間で難しい状況に陥っている方も多いと思う。現状を共有したい。

【参加者】

- ・コロナへの不安で、母親は外に出られない状態になっていた。その場合、祖父母などのシルバー世代がカバーしなければいけない状況になるが、そのときに、どこに連絡したらよいか分らなかったようだ。また、不安を抱えた母親たちがいるという情報をどのようにキャッチするかが課題。
- ・対面で話すのは苦手だが、メールやLINEではたくさん相談できるということがあるが、コロナになってからは電話が苦手な人が増えたように感じる。
- ・母親たちから、コロナ前は地域子育て支援センターによく行っていたが、コロナ禍になって、支援センターにも行けなくなったと聞いた。

テーマ2：地域子育て支援センターについて

【参加者】

- ・コロナで閉鎖していた地域子育て支援センターが再開したが、以前ほど利用されていないと聞く。皆、居場所を求めていると思うので、支援センターの情報をわかりやすく発信してほしい。
- ・地域子育て支援センターのオンラインでおしゃべり広場について、参加できるのはひとつの支援センターだけであり、他の支援センターとも繋がって、話ができればよい。他の支援センターの様子が分かれば、行ってみよ

うというきっかけになると思う。

テーマ3：団体で活動する中で感じている課題について

【参加者】

- ・不登校のフリースクールを運営しているが、活動のスペースやボランティアのスタッフに限界がある。
- ・子育て支援活動している人たちのネットワークがあればもっと活動しやすい。
- ・コロナ前は交流会があり、そこで他の支援者につながりができ、道具の貸し借りなど、連携がしやすかった。
- ・個人で活動するのは限界があり、他の団体と連携して、居場所などをもっとつくってあげればよいと思う。
- ・町内会もどこに子育て世帯が住んでいるかを把握されていない状況にあり、災害時等は課題であると思う。

テーマ4：不登校について

【市長】

- ・市内でも、不登校が増えている。コロナもあって、今年度、不登校対策に力を入れて、総合教育会議などでも議題として取り上げてやっていこうと思っている。

【参加者】

- ・フリースクールでは、子どもたちがどうやったら楽しんでくれるかと考えてやっている。子どもたちは、勉強もしたいということがわかってきた。子どもたちに主体性を持たせる教育や個性を伸ばしてあげる教育が必要。
- ・フリースクールは、ボランティアのスタッフで続けていくのが難しい状況。ボランティアの人材バンクなどがあればありがたい。
- ・不登校になり、大人になってもひきこもりになった場合、社会や地域がどのようにフォローしていくかが課題。長いスパンで支援していく必要がある。
- ・支援の土台は家庭である。早いうちに居場所を見つけてあげる、居場所を増やしていくことが大切。

テーマ5：市の現在の取組やこれからの取組について

【参加者】

- ・野球のキャッチボールをできる場所がなく、三原市には大きい子どもが遊べる場があまりないと感じる。放課後に学校の運動場を開放してくれるとありがたい。
- ・高校生たちが、地域の子どもたちに関わる取組があればよい。
- ・市役所本庁舎2階が、子育て支援をしている者からするとワクワクする場所になっていない。
- ・子どもが発熱した時など、急な託児に対応してもらえるような制度があれば助かるということをよく聞く。ファミリー・サポート・センターなどさまざまな制度やサービスがあるが、託児サービスを告知してもらえるとよい。
- ・産後ケアや家事・育児支援があれば助かると思う。そういった制度がせっかくあるのに、知らない母親が多いと感じる。

【市長】

- ・必要な方に、必要な支援をしっかりと届けていきたいと思っている。
- ・三原市が子育てしやすいまち、三原市で子育てしてよかったと言ってもらえるまちをめざして、今後も支援者の皆さんと連携を取りたい。